

2022年6月6日
長野県南信農業試験場

フジコナカイガラムシ（カキ）の防除適期予測

防除対象：フジコナカイガラムシ（カキ）第1世代若齢幼虫

予想ふ化盛期：6月23日～6月26日

対象地区：下伊那地域（標高400m～700m）

予測防除適期

1回目：表1の予測ふ化ピークから1週間以内

2回目：表1の予測ふ化ピークから約4週間後

本年のフェロモントラップによるフジコナカイガラムシ越冬世代雄成虫の捕獲ピークは5月26日であった。そこから予測されるフジコナカイガラムシの第1世代のふ化盛期は、6月23日～6月26日であり、昨年同様に標高による差がほとんど無い（表1）。

表1 フジコナカイガラムシの発育予測

調査地点	飯田市座光寺	南信農業試験場	高森町牛牧
標高	400m	560m	680m
PT*捕獲ピーク	5月26日	5月26日	5月26日
予測ふ化ピーク	6月23日	6月25日	6月26日
予測2齢発生	7月5日～	7月8日～	7月9日～
予測3齢発生	7月12日～	7月16日～	7月17日～

*PT：フェロモントラップ（雄成虫）

防除のポイント

- フジコナカイガラムシのふ化は、予測ふ化盛期から長期間（7月中旬まで）続く。
- フジコナカイガラムシの防除適期は、若齢幼虫期（1～2齢）である。ふ化前や成虫期は殺虫剤の効果が得られにくいため、ふ化幼虫が最も多い予測ふ化ピークに1回目の防除を行い、2回目の防除をふ化完了期である4週間後に行うと効果が高い（表2）。

表2 フジコナカイガラムシ第1世代幼虫の防除時期と防除効果（平成29年、南信農試）

試験区	処理月日				100果当たり虫数		虫数増加 の割合 (②/①)
	6月20日	7月3日	7月11日	7月18日	①第1世代虫数 (6月19日)	②第2世代虫数 (8月17日)	
1	スプライト	モスピラン			0.8	2.3	2.9
2	スプライト		モスピラン		1.2	3.0	2.5
3	スプライト			モスピラン	0.9	1.5	1.7
4				モスピラン	1.4	11.3	8.1
無処理	—	—	—	—	1.3	162.7	125.2

スプライト：スプラサイド水和剤1500倍 モスピラン：モスピラン顆粒水溶剤2000倍

※ふ化予測日：6月19日及び6月30日、1齢幼虫捕獲盛期：7月6日